

# 祈り

導師 現楠

お教歌に、

「今日きょうもまた 無事ぶじでくらし 悦よろこびに 五字ごじを唱となえへて 御礼おれいもう申まうせよ」とあります。

—— 私たちは希まれなるご縁をいただき、この世に命を授さずかり、過あやまらぬように生きています。たくさんの人や、物から「お陰かげさま」をいただいている。

目には見えないが、ご先祖さまをはじめ、多くの先人方のお陰。そして、何よりもご法さまのお守りがあればこそ。

感謝の心を込めて、お題目だいもくをお唱となえすることが肝要かんようである。——  
との意と、拝察はいさつします。

新聞に掲載された「当たり前前の日々の幸せ」と題した、十八歳男性の投書記事を、概略ご紹介します。

——毎週、週末になると家族で祖父母の家に泊まりに行くことが多い。

いつも決まって夕食後は、祖父母・母・妹・私で、ゲームをして遊ぶ。

その日、ゲーム中に、テレビからウクライナの状況が映し出された。

何気なく見ていると、祖母が、

「今こうやって、遊べているのは幸せなことなのよ」

と言った。

戦争を体験した祖母の言葉には、重みがあった。

今この瞬間も、同じ人間同士が命を奪い合っている現実を思うと、つらく

なった。私たちの日常は、ウクライナでは非日常。ウクライナでの日常は、私たちにとって、非日常であることを強く感じた。

ふたたびゲームを続けたが、幸せな日常というのは、こういうことなんだと感じた。これからも家族と幸せな時間を過ごせることに感謝し、大切にしていきたい。——

このような記事でした。

私たちが、日々当たり前のつもりで過ごしていたことが、実は当たり前でもなんでもない。ありがたい、ありにくいことなのだ。このことに、心から感謝しなければならぬ、と投書記事を読み、深く共感しました。

先日、ルーマニア革命を題材としたドキュメンタリー番組を見ました。

それは一九八九年に、共産主義国家で、チャウシェスク大統領の独裁政権下のルーマニアが、民主主義国家に移行するために起こした、流血革命の実際の映像を主体とした番組でした。

革命に至るまでのルーマニア国内情勢や、革命を巡り大混乱となる国内や、国民の姿を目の当たりにし、強い衝撃と悲しみが心に刻まれました。

同時に、平和な日本に生まれ、暮らしているありがたいさが身にしみました。

二月二十八日、アメリカとイスラエルは、共同でイランに対する大規模な軍事攻撃を行いました。これにより、イランの最高指導者・ハメネイ師を筆頭に、多くの人が命を落としました。中東諸国全体を巻き込んで緊張が高まり、経済的影響が全世界に広がります。今後の行方が危惧されます。

祈り

日蓮大聖人は、

「法華経を以て国土を祈らば、上一人より下万民に至るまで悉く悦び榮へ給ふべき鎮護国家の大白法也」

——法華経を以て、我が国の安泰を祈れば、人々は悉く、安心立命の境地を得る。法華経は国を鎮め、平和をもたらす唯一絶対の正法である。——

と、説いております。

いかに、祈ることが大切か、ということです。

実際、ご在世の時、関東一円が大干魃になり、飢饉が予測されました。

その折、飢饉を憂いた大聖人は、雨乞いのご祈願をされました。

すると何と、他の宗派の僧侶方が一人として叶わなかった、雨を降らせる

ことができ、飢饉を免れたのでした。

さらに、大聖人は、幕府に「蒙古襲来」を予測し、時の為政者に襟を正す

べく諫言されました。

しかし、諫言に耳を貸さなかったため、後に「文永の役」「弘安の役」として、

蒙古襲来が現実のものとなりました。

大聖人は、蒙古調伏を祈願されたことにより、これまた大現証が顕れ、蒙古軍は撤退したのでした。

七百数十年を経た今も、福岡の「蒙古塚」には大聖人のご尊像がご安置されているとのことです。

私どもは、大聖人が不惜生命を以て、死身弘法の結果、有り難くも法華經を持ち、お題目をお唱えし、信行精進させていただいています。

そのことに、改めて心より感謝、御礼申し上げます。

日本では、ワールドベースボールクラシックなどが開催され、平和を享受している一方、世界では不安定な様相を呈しています。

これから先も、世界情勢の緊張感が一層高まっていくでしょう。

そのような時、まず私どもができることは、世の中の平和を祈ることではないでしょうか。皆さん、祈りましょう！

国のため、世のため、人さまのため、日々平穏でありますように。

争いごとが一日でも早く収まりますよう、お祈りしようではありませんか。ありがとうございました。

(三月一日 総講ご法門)